

今年度の重点目標

- あらゆる教育活動に生徒が主体的、協働的に活動する場を取り入れる。
- 本校の特色を強化し、魅力として積極的に発信する。

達成度

- A: 十分満足できる
B: 概ね満足できる
C: 満足できない
D: 努力を要する

※上記の4段階を基に、各領域において達成基準を作成

◇重点目標 1. あらゆる教育活動に生徒が主体的、協働的に活動する場を取り入れる。

領域		具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題
部	教務	①ICTやスタディサブリの活用を促進され、生徒の学力向上に役立てられるよう、機材等がスムーズに利用できる環境整備に努める。 ②地域や大学と連携し、科学技術に関する講義や施設の見学(紹介)など体験的な活動を実施して、主体性の向上を図る。	①電子黒板用スクリーンの整備が実施できた。環境面においてはICT機器を活用した授業が行えるようになった。 ②県央産業技術専門校の出前授業の実施など例年通りの活動はできた。	B B	①スタディサブリにおいては活用が不十分であるので、モデリングや研修の場を設定するなど学習部とともに図っていきたい。 ②科学技術リテラシー教育については、見直しが必要ではないか。地域連携として、近郊の作大との何かしらの連携が図れればよい。
	学習	ICT機器の活用と対話的学習の実践、学習サイクルと自主学習の定着、読書の奨励と総探に係る図書室の利用を積極的に促す。	・ICT機器の活用場面が昨年と比較して増え、効果的な活用方法の確立がなされた。図書の貸出もルールを見直し、読書に親しむ環境や機会を整えた。	B	・スタディサブリでは取組の可視化など取組の工夫を推進する。公開授業の実践など授業力の向上に役立てる。図書館を総探の学習の場として利用できる体制を構築する。
	進路	ICT機器等を利用して、進路実現に生徒が主体的に取り組めるよう支援する。	・上級学校調べ等において、ICT機器を利用し、上級学校のオープンキャンパス、入試情報等を調べた。 ・ネットによる出願・奨学金申請等のサポートをした。	B	・入試の募集要項や大学の情報等をICTを活用し調べられるようにする。スタディサブリ等の活用。
	生活健康	①生徒会各専門委員会・実行委員会の活動を活性化させ、さらにはその連携や協力体制の構築を図る。 ②美化活動における広報や清掃用具等の整備を拡充し、生徒の美化への意識の高揚を図る。	①清掃前の放送を入れても分担区への移動や清掃活動への取り組みが遅い生徒がいた。 ②清掃用具を補充したことによって清掃活動が円滑に行うことにつながった。	B B	①各監督者が分担区への移動を早め、生徒に対して時間厳守の意識の高揚と清掃活動への指示を依頼する。 ②次年度も継続していく。
	特活	生徒の主体的参加を促進する計画を立て、生徒の協働性、積極性を支援、さらには自己有用感を育む助言や評価を行う。	・教員がサポートをすれば、ある程度生徒主導で出来ていた。 ・各行事とも概ね意欲的・積極的に活動できた。	B	・学校行事については、引き続き精選していく必要がある。
学年	1学年	生徒の弱点を把握し動画を配信、基礎学力と思考力育成のための「書く」作業を取り入れる。アンケートを活用して現状把握に努める。	・スタディサブリの到達度テストを利用して弱点となる最優先の動画を配信することができた。Q、生活アンケートなどは実施し、クラス運営に生かすことができた。小論文指導の中で「書く」作業を取り入れることができた。	B	スタサブの動画は今年度1つだけ配信した。今後、動画をどう活用していくかを検討していきたい。
	2学年	家庭学習や放課後学習を活用させ、面談や総探から学習に対する主体性や思考・判断力、自己有用感を高める指導を実施する。	・英検の受験者も多く、良い影響を請け合って積極的に取り組んでいる。類型選択から進路を本格的に意識し始めたが、悩んでいる生徒が多い。	B	十分に準備して検定を受検するよう指導を工夫したい。修学旅行の後、進路実現に向けて全体指導を3学期に行いたい。
	3学年	教科や顧問との連携、放課後の自習室活用、教員間の情報共有や面談、検定取得などを通し、有効な進路指導を実施する。	・自主性のある生徒とない生徒との差が顕著である。 ・自習室の利用者が増加しているのはよいことである。	B	・総合型での選抜試験が増加しているので、基礎学力の向上に加え、入試制度を生徒・教員ともに理解を深める必要がある。
教科	国語	授業での演習や思考を伴う活動を重視し、漢字コンクールを通した自己有用感の高揚に向けた、授業改善や職員の共通理解を図る。	・各回で事前に課題に取り組んでから、コンクールに臨むという姿勢を育てることができた。回を重ねることで、習熟の度合いが上がって成果を上げられた。一方、取り組みがさらに期待できるHRも見受けられた。	B	・合格点に達するだけでなく、内容やコンクール前後の取り組みについて授業内という視点も含め、さらに改善点を探す。漢字検定への挑戦という視点も、生徒に提示する。
	地歴公民	大学受験を見据えた、授業内での入試問題の導入、主体性や進路意識を高めた深い学びへの支援を充実させる。	・定期テストや校内模試において大学入試問題を活用することが出来たが、主体的に取り組む生徒をもっと増やす必要がある。	B	・生徒の意欲向上につながるような大学入試問題の活用法を研究する必要がある。やれば出来そうだと感じてもらいたい。
	数学	問題を精選して目標や到達度を明確化する。また、適切な単元目標を定め評価基準を作成して指導と評価の一体化を図る。	・主体的に考えたり、自分の考えを表現したりする活動を、充実させることができた。ICT機器を活用してテスト作成採点を工夫することができた。学習内容の増加に伴う授業実践、学年打合せの実施などが十分にできなかった。	B	・ICT機器を活用したテストの作成採点をさらに工夫していく。打合せを密に行い、進度の調整と指導方法等の共有をすすめていく。

教科	理科	興味関心を高める実験・観察の実施、グループワーク・ペアワークを活用した協働的な学び、科学的思考力を高める実験や演習を活用する。	・授業や実験の中で考えさせる機会を多くもつことができた。自然現象を調べる活動ではグループやペアワークで協働し、探究する機会を設けた。また、実験・観察の過程や結果について考察し、レポート等で表現させた。	B	・学習に対して主体的に取り組む姿勢をどのように身に付けさせるか、実験・観察と問題演習を行う時間のバランスをどう取るかが課題である。
	保健体育	他者への尊重、他者との協力に対する資質の向上、ICTやグループワーク・ペアワークの活用による主体性を育む機会を充実させる。	・体育、保健ともに特定の友だちとの関りにならないように配慮しながら活動を展開したことにより、他者との協働の中から技能や学びを深めることができた。	B	・体育では競技の経験者が中心となって自主的にゲームやリーグ戦などを展開していけるように、指導をしていきたい。
	芸術	主体性を引き出し個性を伸張させるための教材設定や研究を行い、グループ活動による作品制作や表現活動を実施する。			
	家庭	家庭生活や社会生活を総合的・体系的の捉え、ICTや体験活動を取り入れ、自ら考える力や生活に応用できる力を養う。	・安全に配慮して実験・実習等、体験活動を多く実施することができた。	B	・実習室での電子黒板の使用が可能になったので、ICT機器を多く取り入れていく。
	英語	主体性を引き出し個性を伸張させるための教材設定や研究を行い、グループ活動による作品制作や表現活動を実施する。	・実用英語技能検定試験を校内で3回実施し、検定の問題の一部リニューアル対策も工夫して指導した結果、昨年度とほぼ同じくらい数の生徒が検定を受験し合格することができた。	B	・2025年度から準2級プラスが新たに始まりレベルが増えるので、より多くの生徒が受験し、引き続き生徒の英語力の向上につなげられるように指導していきたい。
	科学技術	実験・実習を通したもののづくりの楽しさを理解させ、SLTやレポートを活用して多面的な科学的な探究への姿勢作りに心がける。	・実習を通しての他者との協働的活動や、SLTによる科学技術への関心を高めることができた。しかし、事象や現象について思考を働かせる取組や、SLTの内容の理解や知識を深めるためのフォローに課題が見られた。	B	・実験・実習を通して得られた結果や事象について考えられるような授業展開を心がけていきたい。 ・サイエンスリテラシータイムズの有効な活用法を考えていきたい。
	情報	学年と連携して協働する環境やGIGA端末を活用した情報処理や表現技術を享受し、教科横断的なICT活用能力を育成する。	・PC室の利用により協働・対話的授業が展開できた。GIGA端末の管理状況は芳しくなかった。	B	・特に2、3学年においてGIGA端末の管理状況を改善する。 ・今年度から始まった共通テスト「情報 I」を受けて授業改善を行う。

◇重点目標 2. 本校の特色を強化し、魅力として積極的に発信する。

領域		具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題
部	教務	清陵の森などの本校施設や周囲の地域施設を活用した教育活動を企画・実施して、多様な学びの場を提供する。	・3年生の校外学習など、いくつかの授業で企画・実施ができた。	B	・総探の課題研究に取り入れてもよいのではないか。活動報告の場を設けるなど、今後も活動の促進が必要。
	学習	講演会を活用した国際理解教育の充実、教科横断的な探究の取組、総探における大学等との地域連携の活用を促す。	・国際理解教育講演会では異文化理解/多文化共生に理解を深める機会を得た。総探でも学年を中心に体系作りが行えたが、SLTなど惰性で行っている取組などもあり、課題である。	B	・国際交流に関する催しで参加者が出ず、周知などの課題がみられた。生徒が大学と関わる活動を継続できるよう取り組む。総探の流れを共有するよう、話し合いの場をもてるとよい。
	進路	大学や専門機関等の連携により、進路行事の充実を図り、進路意識の高揚を図る。	・大学・専門学校等と連携し、計画的に進路行事を実行できた。	B	・クラス数・生徒数が減少したため、カレッジインターンシップや職業別分科会等の選択分野の精選が必要である。
	生活健康	交通ルールや生活マナーを向上させて、交通事故やネットトラブルの防止への意識向上につながる情報発信に努める。	・上級生の交通事故やネットトラブルは少なかったが、1年生の発生件数は例年並みに発生してしまった。	B	・交通事故の未然防止指導以外にも事故後の対応などの指導も定期的実施していく。1年生には担任や部活動の顧問などから絶えず注意喚起を実施していく。
	特活	保護者や地域など外部機関との連携を得た学校行事、部活動、ボランティア活動の実施や成果等の情報発信を積極的に行う。	・部活動について、あまりHPを活用できなかった。 ・保護者の学校行事参加(サポート)が有難かった。	B	・HPの更新する月日を決めておく、または、大会後には原稿をUPする、というルールを職員皆で共有して運営していく。

学年	1学年	家庭での話し合いを推奨し、HPの定期的更新や学年便り、学年集会の内容精選を実施して、効率的に情報を伝える。	・1学年だよりを定期的に発刊した。学校行事の日時の連絡、行事後の報告、学校からの連絡などを記載した。これからもできるだけ情報を発信していきたいと思う。	B	・継続的に学年だよりを定期的に発刊する。途切れないように気を付ける。
	2学年	挨拶や適切な言葉遣い、迅速な行動の実践を通して、自己の在り方や協働性に長けた生徒の育成につながる指導・発信を徹底する。	・概ね良好。(修学旅行時など)。服装再指導について、生徒達は素直に応じている。	B	・一部の生徒に服装の乱れがあるため、声かけを継続したい。
学年	3学年	社会生活における良識ある行動、進路実現やボランティアへの積極的な参加、総探への能動的な取組への支援・発信に従事する。	・3年生になって、だらしくなった部分があり、残念である。 ・総合的な探究の時間でのプレゼンが良かった。進路につなげることが大切である(課題)。	B	・スタッフが少なくなり、運営が厳しい行事が出てきているので、精選すべきである。また、服装頭髮指導についても、教員の負担が多いので、見直しが必要である。小論文の指導が重要である。

◆保護者及び生徒アンケート

今年度は、グラフではなく表を活用、質問に対する良好(当てはまる、どちらかといえば当てはまる)の合計の数値を比較してみた。また、重点目標に係る質問として、重点目標①(質問3,9,11,12)②(6,7,17,21)を抽出して、その変化を捉えてみた。

重点目標①については、質問3(生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成)にて、生徒、保護者が微増、教員が増加の結果となった。年度当初から校長を中心に教員側が一貫して主体性の向上に取り組んだ成果であり、生徒、保護者にも浸透した結果となった。また、質問11(部活動や生徒会活動に主体的に取り組む)でも若干ではあるがその傾向を見て取ることができる。

重点目標②については、質問21(特色ある教育の実践)にて、生徒が微増、保護者、教員が増加の結果となった。行事の種類は例年通りであったが、それを行う生徒、教員、さらには保護者が精力的に取り組んだことがうかがえる。コロナ禍が明けたことも好転した要因で合ったと思われる。

その他では、質問8(校則に則った行動)にて、生徒と保護者・教員との意識の乖離がみられた。生徒は守っているつもりでも、大人からみると不十分さが感じられるのではないか。同様に、質問15(校内の美化)についても、生徒、教員と保護者との乖離があり、課題となった。

◆学校関係者評価

学校評価アンケートの結果から、清陵高校がとても充実した教育活動を行っていることがよく伺える。特に、重点目標として掲げた「生徒の主体的な取組」については、目に見える効果がみてとれる。しかし、学校としては、その主体性がどのようにして学力、さらには人間力の向上につながっているかを判断しなければならない。難しい課題ではあるが、是非とも取り組んでいただきたい。

高等学校は、大学等上級学校には目が行くが、小中学校には目が行かない長年の課題がある。実のところ、小中学校ではかなり前から探究活動に力を入れている。なので、特に高校側で何も言わなくても、生徒は探究学習を進めることができる。重要なのは、何を探究するかである。単に自分・地域だけだと中学校の続き、となる恐れがある。高等学校ではどのようなエッセンスを取り入れて探究学習を行うか、よく考えてもらいたい。

校則改善、働き方改革、交通問題など、喫緊の課題について、学校だけではなく、地域とのつながりの中で解決していただきたい。40周年や新校設立など、新たな業務がある中で、今の生徒、日々の教育を大切にして尽力いただきたい。

◆重点目標における総合評価

評価基準 (1) 各達成度に対し、「A:7点」、「B:5点」、「C:3点」、「D:1点」を乗じて点数化する。
(2) 点数化した合計点を課題数で平均化(評価点)し下表に従い総合評価する。

総合評価	A	B	C	D
評価点	6.0以上	5.9～4.0	3.9～2.0	2.0未満

重点目標1	重点目標2
B (5.00)	B (5.00)
生徒が主体的、協働的に活動することは、ずいぶん前から唱えられてきた教育観であり、現場では実践することが難しいとされてきた。その要因の一つとして、教員側がその仕組みを整え切れてなかったことがあげられる。今年度、清陵高校としては、重点目標に掲げ、まずは教員側からのアプローチを試みた。その結果、教員側からは高い評価が得られ、生徒、保護者からもその傾向を読み取ることができた。しかし、主体性を育む一方、その対をなす協働性については、まだまだ十分でないことも明らかとなった。生徒は、自らが主体的に取り組む、行動する中で協働性を見出す、つまりは他者を尊重することが求められる。これはなかなか容易ではない。しかし、一人一人がノーマルな状態で主体的な行動が取れるようになれば、必然的に協働性につながる、とも考えられる。次年度の数値の変化に期待したい。	重点目標②は二本立てである。まずは、本校自体が特色ある教育活動を実施ならびにそれを強化していること。そして、その教育活動の魅力を積極的に発信することである。本校の特色ある教育活動としては、教員による多種多様な授業、バラエティに富んだ学校行事、活気ある部活動、細かに組み込まれた講演会や探究活動などが当てはまる。コロナ禍が明けたこともあり、授業ではペアワークやグループ活動などが積極的に取り入れられ、ICTを活用した授業などが多数みられるようになった。学校行事については特段の変化はないものの、規制がなくなり、生徒が生き生きと活動できるようになったことは大きいのではないか。しかし、それらをいかにして発信していけば良いのか、課題は残る。HPでの工夫、一斉メールの活用、紙媒体の通信発行などがあるが、どれも一長一短があり、さらには組合せも複数のパターンが考えられる。どれが効果的で、どれとどれを組み合わせるか、情報を効果的に発信していくことは今後とも課題である。

今年度の重点目標

- 1 進路実現を支える学力の向上及び自ら学ぶ態度の育成。
- 2 主体性と協働性の涵養。
- 3 本校の特色化・魅力化の推進。

達成度
A: 十分満足できる
B: 概ね満足できる
C: 満足できない
D: 努力を要する

※上記の4段階を基に、各領域において達成基準を作成

◇重点目標 1. 進路実現を支える学力の向上及び自ら学ぶ態度の育成。

領域		具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題
部	教務	○タブレット端末を利用する機会を増やすため、各教科等で有効的な活用法の検討を図るための支援をする。 ○情報機器の更新を含め、ICTの利便性の向上を図る。	・生徒用タブレットの利活用に関する校内研修を実施した。 ・タブレット端末の活用において、教科によって向き不向きがあるが、活用は広がっている。また、学年等や各種アンケート、学校評価など授業以外でも活用できた。	B	・生徒がタブレットを使用して個々のレベルにあった学習ができるよう、学習指導部と連携していく。また、引き続きICT機器の有効的な使い方を模索していく。 ・情報機器や生徒タブレット端末の管理を、さらに図っていく。
	学習	○ICT機器等を活用した学習及び他者と協働した学習の機会の創出と実践支援。 ○日々の学習サイクルの定着及び自主学習の実践指導。	・ICT機器を活用し、学習させる準備を次年度に向けて着実にこなっている。	B	・来年度から朝の学習の時間が無くなる。うまく機能していなかった点を踏まえ新たな、自主学習に向かわせる工夫が必要。学習指導部としてスタディサブリの導入など積極的取り組みを行う。
	進路	○ICT機器等を利用して進路について調べ学べる環境を整える。 ○各教科と連携し、課外・模試等を通して、進路実現に生徒が主体的に取り組めるよう支援する。	・上級学校調べ等において、ICT機器を利用し、上級学校のオープンキャンパス、入試情報等を調べた。 ・各教科の連携のもと、課外・校内模試を実施することができた。 ・進路実現にむけて面接・小論文の指導を組織的に実施できた。	B	・入試の募集要項や大学の情報等をICTを活用し調べられるようにする。 ・平日課外・土曜課外の内容・実施方法の検討を行う。
	図書	○時期に応じた図書を充実させ、利便性の向上を図る。 ○読書の場合・学びの場としての環境整備に努める。	・昼休みを中心に来館者が増加し、貸出数も増加しつつある。 ・図書委員が図書館クエストやビブリオバトルなどに意欲的に参加し、蔵書点検でも活躍した。 ・マナーの向上が見られた。	A	・図書館行事への参加者を増やす、本の貸出冊数を増やす、図書館への来館者を増やすような取り組みをしたい。
	健康	○欠席等の減少に向け、生活習慣の質向上について随時注意喚起する。 ○生徒理解のため、教職員間の情報交換・共有機会の拡充を図り、早期発見、早期対応に努める。	・保健委員会でストレスについて調査しその結果や対策法を昇降口に掲示するなど健康な生活について啓発することができた。	B	・欠席、保健室利用者の延べ人数を減らすために、人間関係の悩みなどを早期に発見対応できるように引き続き、連携を強化していきたい。
学年	1学年	○学習方法の確立を図る ○自学自習の習慣化を図る ○基礎学力の定着と思考力の育成を図る。	・自学自習の習慣化のできている生徒は少ない。基礎学力の定着、思考力は不十分。	C	・次年度は朝の学習がなくなるが、別の形で自学自習を促す手段を考える。
	2学年	○朝の学習や放課後における教室、図書室の利用を促し、学習時間を確保するとともに「やればできる」を実感させる。	・定期試験前や小テストは意欲的に学習に取り組む生徒が見られた。 ・生徒間で朝の学習への取り組みにかなり差があり改善できなかった。	B	・図書館利用なども促進し、日常的に学習に取り組ませたい。 ・朝の学習の時間(朝の学習は廃止)を有効活用する方策を検討する。
	3学年	○教科や部活動顧問と連携や面談を通し、有効な進路指導を行う。 ○放課後の自習室や教室の利用を奨励し、学習を支援する。 ○未来手帳やClassiを利用し、学習計画を推進する。	・面談等を通して、有効な学習指導や進路指導を充実させることができた。 ・未来手帳等を利用することで、計画的に学習に取り組んでいた。	B	・自習室や図書室の利用者が少ない。 ・家庭学習時間が不足しており、もっと奨励する必要性を感じる。
教科	国語	○学習指導部と提携し漢字コンクールの事前事後の指導を充実させる。	・11月には95%の合格率が出るなど、生徒の成功体験は十分積ませた。科内では方法論議などに知恵や時間を出し尽くした。年度初めに存在した怠惰な生徒は減少した。夏以降は学習障害的な要素により得点できない面を分析し、不合格者の勉強会で親切に指導している。	A	・学習指導部行事であり、スタディサブリ導入後には漢字コンクールのあり方は変更されると思われる。教務部や学習指導部と話し合いを進めたい。
	地歴 公民	○四大受験までを見据え、授業に入試問題等を取り入れる。 ○主体的に問題を解き、進路意識を高め、深い学習に結び付けさせる。	・定期テストや校内模試において大学入試問題を活用することが出来たが、主体的に取り組む生徒をもっと増やす必要がある。	B	・生徒の意欲向上につながるような大学入試問題の活用法を研究する必要がある。やれば出来そうだと感じてもらいたい。
	数学	○目標や指示を明確にし、主体的に考え表現する活動を充実させる。 ○問題を精選し、ICTを活用するなどして指導法について工夫する。	・ノウハウが蓄積され指導内容を精選して、指導することができた。計画通りに指導でき、生徒の理解度も概ね良かった。学習内容の増加に伴い、進度がギリギリの科目もあった。	B	・学習内容の定着が不十分な生徒が多い。単元によっては、主体的に考えることが難しい場合もある。 ・ICTなどを活用した指導法について研究を進めていく。観点別評価の充実。教科打合せの活用。

教科	理科	○興味関心が湧く実験・観察や調べ学習・発表など思考力・判断力を育む機会を多く設ける。更に、実験・観察の過程や結果に基づく考察や図表・グラフを読み解く演習に取り組ませる。	・授業や実験の中で考えさせる機会を増やすことができた。また、定期考査で実験結果から考察するような問題を出題できた。	B	・学習に対して主体的に取り組む姿勢をどのように身につけさせるか。実験・観察の時間と問題演習のバランスをどう取るかが課題である。
	保健体育	○補助教材を活用し、基本技能の確認やルール理解を深めさせる。 ○仲間との協同、連携の大切さを意識した言動をうながし、ゲームを通して、運動の楽しさを体験させる。	・基本的なルールを概ね理解し、上級生は生徒間で協議しながらリーグ戦など実施し、楽しく活動することができるようになった。	B	・人間関係などによって活動内容、活動量に大きな二極化が見られ、授業展開において様々な仕掛けを検討し、実践していきたい。
	英語	○実用英語技能検定試験の校内での実施回数を増やし、生徒に受験機会を与え取り組ませることで、生徒の英語力の向上につなげる。	・実用英語技能検定試験を校内で3回実施し、検定を取得するメリットについても伝えて指導した結果、昨年度よりも多くの生徒が検定を受験し合格することができた。	B	・2024年度から検定の問題が一部リニューアルされ、問題の難化が予想されるので、対策の指導を工夫し、引き続き生徒の英語力の向上につなげていきたい。
	家庭	○各分野を総合的、体系的に捉えることで家庭生活や社会生活に関する問題を提起し、自ら考える力を身につけさせる。 ○体験活動を取り入れ、実生活に応用できる力を身につけさせる。	・実習等の体験活動を多く実施することができた。	B	・実習室でタブレットの使用が可能になったので、ICT機器を多く取り入れていく。
	科学技術	○実験・実習を通してものづくりの楽しさを理解させ、レポート作成を通して科学的に探求する姿勢を育成する。 ○上級学校や校外施設と連携した学習機会を設ける。	・SLTは芸術科も加わり、より多彩な視点で話題提供ができた。 ・宇都宮大学との連携授業に加え、県央産業技術専門校の出張授業が学年単位で実施できた。 ・HPIにも外部機関との連携や授業の様子を公開できた。	A	・引き続き外部機関との連携を継続しながら、県産業技術センター見学等の連携を拡充させるとともに外部への発信を強化していきたい。
	情報	○授業に使用するGIGA端末の管理を含め、実際に情報処理や表現技術を学ぶことで、他教科や学校生活等にも生かせるICT活用能力を育成する。	・3年は実習を中心に情報処理技術の向上、1年は座学を中心に知識と技能の向上に努めた。授業ではTeamsで課題配信等を行った。 ・GIGA端末の不具合等についてICT支援員への相談を促すなど、管理について助言した。	B	・次年度は、共通テストに情報Ⅰが出題される初年度であるので、課外等も含め、対応を考えていく必要がある。

◇重点目標 2. 主体性と協働性の涵養。

領域		具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題
部	生徒	○交通ルールの遵守・交通マナーの向上と交通事故の防止。 ○ネットトラブルの防止に対する意識の向上。	・随時、臨機応変に指導してきたが、まだ改善の余地がある。	B	・交通の指導内容にLRT関連も加え、指導充実を図る。 ・ネットトラブルについても継続指導とし、生徒会と協働して規範意識を育む。
	特活	○各行事・部活動において、生徒が仲間とともに自主的・積極的に参加し、活発な活動となるよう計画・活動支援をする。	・部活動に積極的に参加する生徒もいるが、簡単に休んだり、積極性に欠ける生徒がいる。 ・各行事では生徒が自主的かというとのはなかなか難しいが、教員がある程度準備すれば、積極的に参加する生徒が多かった。	B	・部活動に加入するだけでなく、参加率を高め、個人の責任感を高められるようにする。また、部全体の雰囲気として積極性を引き出していく。 ・コロナも明け、通常通り行事ができるようになったため、生徒が前年度の経験から自主的に活動できるように支援する。
	渉外	○保護者と学校が連携して本校の教育活動(学校行事等)を支援、充実させる。	・PTA総会を、WEB上に資料をアップし確認・承認する形で実施した。 ・競技大会の活動内容の充実を図った。 ・研修旅行は参加人数不足、木の葉さらいは悪天候で中止。	B	・研修旅行の実施時期や清陵祭の参加形態の変更、木の葉さらいは2学期に複数回実施等を通して参加者増加を図る。
学年	1学年	○服装容儀、時間厳守、朝の学習等の指導を徹底する。 ○学校行事や学年行事、総合的な探究の時間の中で生徒が主体的、協働的に行動できるよう促す。	・学校生活における生活習慣は好ましい。学校行事や朝の学習の参加状況も良好。 ・主体的、協働的な行動は伸びしろあり。	B	・行事や探究活動の中で生徒の主体性、協働性を引き出すため、教員側が狙いや役割を明確にする必要がある。
	2学年	○さわやかな挨拶、場に応じた言葉遣い、迅速な行動等を通してお互いを認め合い高め合う。	・学校行事や学年行事は前向き、意欲的に取り組んでいた。 ・規範意識が低くなっている。(茶髪、化粧、チャイム等)	B	・成人する年であることを自覚させ、責任感を持たせる。 ・最高学年であるということで学校の中心的役割を果たさせる。
学年	3学年	○服装容疑、時間厳守、朝の学習、スマホの使い方等の指導の徹底。 ○生徒が最上級生として主体的・協働的に行動できるよう促す。 ○出願手続きや面接依頼など、自ら計画し行動できるようにす	・学校行事ではクラスメイトと協力し、主体的に行動できた。 ・多くの生徒は規範意識が高いが、規範意識が低い生徒も一部いる。	B	・朝の学習への遅刻は一部で常連化しており、改善が難しかった。 ・出願手続きや面接依頼などは手取り足取りとなる生徒が少なくなかった。
教科	芸術	○生徒自身の思いや考えを積極的に表現し、達成感を味わえるような授業を展開する。	・実技を通した自己表現活動は概ね達成できた。芸術分野においての得意分野を生徒自身が理解できておらず、伸長させることが難しい。 ・宇都宮美術館学芸員による芸術3科目横断的な授業が展開できた。	B	・ICT機器の効果的な活用をもう少し目指していくとともに、新課程で新しい科目ができるので、進路実現につながる指導を心がけていきたい。

◇重点目標 3. 本校の特色化・魅力化の推進。

領域		具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題
部	教務	○本校の特色・魅力がより伝わるよう、ホームページの充実や一日体験学習の工夫を図る。	・ホームページにおいては、行事記事や部活動など各所で更新された。しかし、更新されていない箇所もあるのでチェックが必要である。 ・一日体験学習においては、保護者も体育館ではなく教室で説明会を行うなど改善ができた。また、係生徒の発表が好評であった。	B	・ホームページの更新を促す。また、写真掲載の許可・同意は得ているが、生徒の顔がわかってしまう写真が多い。掲載の仕方について周知を図っていく。 ・一日体験学習において、良い点の継続と更なる改善を図る。
	学習	○ICT機器を活用した学習及び大学や企業との連携による実践的支援。 ○教科横断的な取り組みによる実践的教育。	・教科横断的な視点としてSLTを出しているが、感想の記入にとどまっているのではないかと。 ・宇大や県立産技校との連携が図れた。	B	・科学技術教育の再検討。 ・STEAM教育の促進。 ・総合的な探究の時間の充実。探究活動を通し、教科横断的な教育を進める。
	進路	○大学や専門機関等との連携により、進路行事の充実を図り、生徒が主体的に取り組むことで、進路意識の高揚を図る。	・大学・専門学校と連携し、進路行事を計画的に実施できた。	B	・カレッジインターンシップ、職業別分科会等の大学・専門学校の検討。
	特活	○保護者や地域、外部の関係機関との連携や協力を得て学校行事、部活動、ボランティア活動等を実施し、その成果等の情報について積極的に発信する。	・あまりHPを活用できなかった。 ・様々なボランティア活動に参加する生徒がみられた。	B	・生徒会、各部の活動や大会結果などをもっとHPにアップしていくように係として声掛けをまめに行う。 ・ボランティア活動に参加した生徒の様子を内外に発信する。
	健康	○校舎内の施設設備の適切な使用を促すとともに、環境美化への自主的な取り組みができる集団の雰囲気づくりを目指した指導を行う。(ゴミの分別の徹底、清掃活動への意識の高揚)	・ロッカーの上の整理整頓や教室内のごみの分別は概ねできていたが、特別教室や駐輪場などのごみは散乱していることがあった。	B	・美化委員会の生徒の活動機会が少なかったので、次年度は行事以外での定期的な活動を設けていきたい。
	渉外	○生徒会や部活動と連携して行事に参加、HP等でPTA活動の情報発信を行う。	・校内におけるPTA行事の活動報告をHPで実施。PTA研修旅行や木の葉さらいが中止になって活動報告ができないものが生じた。	B	・PTA行事の活動報告をこまめに発信していけるよう、複数の教員が交代でHPに記入する体制を整える。

◆保護者及び生徒アンケート

生徒アンケートでは、どの項目も「当てはまる」「どちらかで言えば当てはまる」の合計が 80 %を超える良好な評価を得た。[重点目標1]に関して、“学力向上”“進路意識の向上”に向けた取り組みについてはおおむね肯定的な評価を頂いているが、教員では昨年に比べ積極的肯定が減少している。また、“自ら学ぶ態度の育成”に関して、否定的意見が生徒で20 %、教員で35 %を超えている。定期考査や校外模試の結果等を考慮しても、早急に原因を追究し改善していく必要がある。[重点目標2]に関しては、学校生活全体に主体的・積極的に取り組んでいる姿が伺える。ただ“自ら(クラス、部活動等)の問題として解決する姿”については改善がみられるものの継続指導が必要な状況である。。生徒の悩み対応”に関して生徒、教員は90 %を超える肯定的評価であるが、保護者の「わからない」が30 %を超えていることを考慮したい。今後、丁寧な面接、SCの活用、生徒観察を引き続き行い、生徒のバックアップを図る一方、保護者の方に安心して頂けるように家庭との情報の共有を図り連携を強めたい。[重点目標3]に関連する“地域連携”“特色ある教育”“カリキュラム”項目において、生徒・教員では80 %以上が肯定的な評価である。一方、保護者においては「わからない」の割合が多い項目となっている。身近な保護者でさえ伝わっていない現実を重く受け止め、特色化・魅力化を進めるとともに“HPでの情報発信”の充実など発信力についても強化することが必要である。

◆学校関係者評価

「探究活動の充実」と「生徒主体の校則の改正」に対して、「学びの姿勢」を身に付けることに繋がりが良いと思う。「生徒が興味を持ち、考え、動き、失敗し、学ぶ」ことで、必要な力の育成になると考える。と複数の参加者から好意的な評価を頂いた。また、保護者アンケートにおいて「わからない」の回答が目立つとあるが、コロナ禍で説明の機会が減ったからではないかと。説明の機会を捉えていくことが大切であり、発信することで発展に繋がると思うとのアドバイスを頂いた。その他、授業や清陵祭で垣間見られた「元気な生徒が多い」のが清陵高校の魅力の一つである。更に、今の生徒が何を求めているか考慮し、科学技術教育だけでなく魅力・特色を考えて欲しいとの意見があった。

また、校長先生が毎朝昇降ロで生徒に挨拶する姿が教員にも良い影響を与えている。問題行動も問題という程でなく、毎日登校し安全に過ごしていることがありがたいとの激励の言葉を頂いた。一方、小中学校での連絡はペーパーレスになっている。高校でも電子データでの連絡を望むとの声や、部活動等の活動場所にエアコンの設置を進めて欲しいとの要望があった。

◆重点目標における総合評価

評価基準 (1)各達成度に対し、「A:7点」、「B:5点」、「C:3点」、「D:1点」を乗じて点数化する。
(2)点数化した合計点を課題数で平均化(評価点)し下表に従い総合評価する。

総合評価	A	B	C	D
評価点	6.0以上	5.9～4.0	3.9～2.0	2.0未満

重点目標1	重点目標2	重点目標3
B (5.24)	B (5.00)	B (5.00)
希望進路の実現に向け普遍的な目標であり、前年度の反省を踏まえ、どの部・学年・教科においても改善を加えながら継続的な取り組みが行えた。特に検定の推奨や粘り強い指導、授業の工夫により生徒の学習に対する意識変化の兆しや学習行動の改善がみられたものの、定期考査や校外模試の結果はまだ満足できる状況とは言い難い。次年度に向け、個に応じた指導のためのICT機器(タブレット)の活用や朝の学習・課外授業・放課後学習支援の在り方についての検討が急がれる。	コロナ感染症による学校行事や部活動の制限が緩和され、積極的に活動している生徒が多く見られた。コロナ禍で継続できなかった行事であっても取り組みに学年ごとの成長が見られるのは、様々な場面での支援・指導の成果といえる。より積極性が求められる部活動においてはなお一層の支援・啓発が必要である。また、集団生活において必要な規範意識について一部不安な生徒もいる。生徒会と協働し行事の改善、規範意識を育む指導を進めていく予定である。	科学技術リテラシー教育において、外部教育機関との連携が広がった。今後も進路指導や特別活動において地域や外部機関との連携をとり、充実した教育活動を展開したい。情報の発信はHPを通し積極的に行っているが、ボランティア活動や校外活動など発信されないものもあった。余すところなく本校生徒の魅力を伝え、理解が広がるように広報活動に力を入れる必要がある。また、保護者へ学校の情報が正しく伝わるように一斉メールの活用も考えたい。

教育目標	目指す学校像
○豊かな思考力に支えられる創造的な知性を持つ生徒の育成 ○強い意志力から生まれる自立的な精神を持つ生徒の育成 ○知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を持つ生徒の育成	○一人一人の進路実現に向けた、きめ細やかな進路指導と充実した学習指導に取り組む学校 ○規範意識を高め、社会性と自ら進んで行動する力を伸長させることに努める学校 ○特別活動の充実を図り、心身の健康を養い思いやりや協調性をもつ生徒を育成する学校 ○現代社会の変化に対応できる教養を高めるために、科学技術リテラシー教育を推進する学校

今年度の重点目標	達成度
1. 自主自律の態度を育てる活動を充実させ、学力の向上及び個性の伸長を図る 2. 他者と協働しながら目標に向かって挑戦させる活動を通し、愛校心を育てる	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:満足できない D:努力を要する

◇重点目標 1. 自主自律の態度を育てる活動を充実させ、学力の向上及び個性の伸長を図る ※上記の4段階を基に、各領域において達成基準を作成

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題
部	教務	・GIGA端末、電子黒板など様々な機会に活用できた。 ・映像配信による集会や講演会が行われ、欠席連絡やアンケートのデジタル化、情報化が進んでいる。効果的な活用は様々な面でできた。	B	・情報共有や積極的な活用と仕事の効率化を徐々に進めていく。 ・タブレットを利用する機会をさらに増やす(各教科で有効的な活用法を検討)
	学習	・タブレットや電子黒板の活用は昨年より進んでいる。	B	・成績上位者の学力の伸長、下位者の底上げのためにできることを検討する。 ・学習環境を充実させるために、自習室の整備を進める。
	図書	・図書館クエストや清陵祭の出展などの行事を開催することができた。 ・希望購入図書の購入では一部図書委員に選定を任せた。 ・昼休みを放課後の使用方法が浸透し来館者は多い。	B	・行事においては参加者の募集の仕方や広報を工夫したい。 ・利用時のマナーや手指の消毒の徹底などを意識させる必要がある。
	進路	・全体として少しずつ、ノウハウが蓄積されて、改善されてきている。 ・コロナの影響があったが、進路行事をほぼ実施できた。 ・3年生の進路実現に向け面接・小論文等、全職員で指導した。 ・自主的に学習に向かう姿勢が生徒によって異なった。	B	・各部・各教科と連携し、授業第一の姿勢を育成する。 ・新しい入試制度、新教育課程などに対応した進路指導の見直しを行う。 ・ICT機器等を活用して進路研究を主体的に行わせる。
学年	1学年	・「朝の学習」に一部の生徒は参加できていないが、定期試験前に居残りをして、学習に取り組む学習意欲が高まった生徒が多く見られた。	B	・生徒一人ひとりの進路意識を高めて、その目標達成のために、継続的に努力できるように指導する。
	2学年	・面談や総合的な探究の時間、長期休業中の課題などで進路を考えさせる機会を多く作ることができた。 ・今年度も調べ学習や発表等の活動にタブレットを有効活用できた。	B	・放課後の学習室利用などを促進してさらなる学力の向上を目指す。 ・学年、進路指導部等と連携して生徒が自分の進路目標に向かって頑張れるよう支援する。
	3学年	・自習室や図書室を利用し学習している生徒が見られた。 ・教員間で進路情報等を共有したことが、生徒の進路実現につながった。	B	・模試の時期や種類の見直し(10月に定期考査や模試が多い)。 ・生徒の進路に応じた指導について、学年を超えた教員間での連携を図る。
教科	国語	・平均点および合格者数はやや低調であり、とくに低学年での漢字力の低下が目立った。学年ごとにクラス平均点表彰と合格率表彰を創設し、各回で賞状を発行したことは成果が見える形となった。	B	・不合格者に対するフォローは必要だが、教科にとっても大きな負担ともなり、労力と効果のバランスをとる必要があった。
	地歴公民	・定期テストや校内模試において大学入試問題を活用することが出来たが、主体的に取り組む生徒をもっと増やす必要がある。	B	・生徒の意欲向上につながるような大学入試問題の活用法を研究する必要がある。これだったらやれば出来ると思ってもらいたい。
	数学	・コロナ禍で学び合いの場が制限される場面があったが、授業展開を工夫し主体的に考えさせたり、自分の考えを表現させたりできた。 ・問題を精選し、指導法について研究することができた。	B	・新課程移行による単位数減少や、コロナ禍による授業時間数減少があり、年間指導計画通りに授業が進まない場面があった。指導内容を精選したり、指導方法を工夫して目標達成につなげていく。
	理科	・授業や実験の中で考えさせる機会を増やすことができた。 ・定期考査で実験結果から考察するような問題を出題できた。	B	・意欲的に自ら学ぶ姿勢をどのように身につけさせるか。実験・観察の時間と問題演習のバランスをどう取るかが課題である。
	芸術	・作品の作成や、歌唱の取り組みで、自己の考えや思いを尊重しつつ、教員からのアドバイスを生かして創意工夫していく姿が昨年よりも向上した。	B	・音楽・美術・書道の選択生徒人数に極端な偏りがあるため、なるべく学年と教科間での調整を今年度以上に密に行いたい。
	英語	・「英単・構文コンクール」と「Weekly Test」により、語彙力と文法知識の強化を図る。	B	・「英単・構文コンクール」をWeekly Testに統合して、生徒の状況に応じた範囲設定をして、語彙力と文法知識の定着を授業で継続的に指導していく。

教科	家庭	○体験活動を通して、実生活において自分の価値観にあった選択ができるように応用力を身につけさせる。 ○ICTを効果的に活用する能力を高める。	・学座で学んだことを実習で定着させるという流れはできているが、生徒が今一つそれらを意識していないと感じる。ホームプロジェクトまでに学習する内容が少ないため、題材が広がらなかった。	B	・学習する単元の順番や教材を使用する時期を見直す。金融教育の教材や教科書の見直しも検討していきたい。
	科学技術	○科学の基礎知識・理論について実験・実習を通じて理解させ、科学と日常生活や自然・環境の問題との関連性を学ばせる。	・宇都宮大学の学生によるSDGsに関する講演ができた。 ・エネルギー教育支援事業、産業技術センター見学を通して生徒の興味関心と意識向上ができた。	B	・科学技術科の授業内容・実習内容の改訂。 ・SLTについて体育科、芸術科にも協力を拡充させたい。(今年度は家庭科が参加)
	情報	○個々のICTリテラシー能力の向上を図る。 ○身近な例や、具体的な事例を交えながら、情報モラルの重要性について学ばせる。	・PC、タブレットで情報処理・表現技術を習得し、モラルについて学んだ。 ・新課程情報 I において、プログラミング学習教材等も導入し、科学的な理解を深める授業を実施できた。	B	・パソコン室が今年度で引き上げになり、GIGA端末の本格利用が必要になるとともに、端末の準備や管理についての指導に学校全体で力を入れていく必要がある。

◇重点目標 2. 他者と協働しながら目標に向かって挑戦させる活動を通し、愛校心を育てる

資料5-2

領域	具体的な教育活動		達成状況	達成度	次年度への課題
部	生徒	○交通ルールの遵守・交通マナーの向上と交通事故の防止 ○ネットトラブルの防止に対する意識の向上	・多くの生徒は、落ち着いて服装も大きく乱さずによく過ごしている。 ・交通事故、ネットトラブルは例年よりも少ない。自らが気を付けようとしている様子も見られる。	B	・達成状況は『B』であるが、どちらも重大な事態を招く危険性を含んでいるので継続して指導していくことが望ましい。 ・愛校心育成のためにも、校則の見直し等の検討が必要か。
	特活	○各行事へ生徒が仲間とともに自主的・積極的に参加し、活発な行事になるよう支援していく。	・今年度は合唱コンクールや清陵祭(従来に近い開催)も実施できて、生徒の満足度も向上した。	B	・生徒が主体的に計画や実施ができる力を育みたい。 ・学校行事の充実と感染症対策の徹底の両立を図りたい。
	健康	○ゴミの分別の徹底を図るとともに、清掃活動への意識の高揚を図る。	・放送委員の清掃開始のアナウンスのおかげで、清掃分担区への移動は円滑になった。しかし、自主的に清掃活動を行うまでには至っていない。	B	・教職員の清掃分担区割り当てが複数箇所になることへの理解を得て、生徒が自主的に清掃活動を行えるように、指導の配慮、工夫の協力をお願いしたい。
	渉外	○保護者の本校の教育活動への理解と意識向上を図る。	・総会の役員・運営委員新旧役員会、球技大会での麦茶配布、学校祭での校章印かりまん販売ができた。	B	・PTA行事をコロナ禍の状況に応じて柔軟に対応・実施していく。行事内容も他校の事例を参考に拡充を図る。
学年	1学年	○こまめな指導を通して服装・頭髪の乱れ防止を図る。 ○時間厳守を徹底する。 ○清掃やHR活動等に主体的に関わる生徒を育成する。	・服装や頭髪については、生徒の考えも尊重し、円満な人間関係を構築したうえで指導ができた。 ・提出期限が守れない生徒が一定数いる。	B	・規範意識を高めたうえで、自ら集団における基準(ルール)を守ることを理解させたうえで、生徒主体の活動を増やしていく。
	2学年	○TPOに応じた容儀や振る舞いのできる生徒を育てる。 ○クラス、学年としての連帯感を高める。	・生徒が合唱コンクールや修学旅行などに積極的に参加し、クラスや学年でまとまって活動でき、学年の連帯感も高まった。 ・頭髪服装指導は、男女の区別なくクラス単位で実施した。	B	・最上級生として、また、進路実現に向かう学年として、制服の着こなしや言葉遣いなど、日ごろから意識できるよう学年全体で指導する。
	3学年	○社会的なモラルを身につけさせ、マナーの向上を図る。 ○学校行事や生徒会活動等においてリーダーとして活躍できる生徒を育てる。	・合唱コンクール、学校祭は初めてであったが、仲間とともに協力し合ってやり遂げる様子が見られた。	B	・進学、就職活動が本格化する前に、マナー講習等の実施をするとうい。 ・ボランティア等、校外での活動にも参加できる機会があるとよい。
教科	保健体育	○基本技能の反復練習とルールを理解させ、自らゲームを企画・運営できるように指導する。	・男子はゲームなどでは仲間と会話や指摘をしあいながら活動することができたが、女子は仲の良い友だちとのグループ意識が強く、卓球やバドミントンでの活動に支障が生じた。	B	・各種目の基本的な動作やルールを習得させる時間を今年度以上に確保することを心掛け、ゲームの楽しさを体験できるように留意したい。

◆保護者及び生徒アンケート

生徒アンケートでは、どの質問項目においても「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」の合計割合が80％を超える肯定的評価を得た。保護者アンケートでは、「分からない」の回答が増加している。次年度もコロナ感染症の影響が残ることを想定し保護者会・PTA活動の持ち方、HP等を含めた情報発信を工夫するなど改善を加える必要があることを示している。[重点目標1]に関しては、“自ら学ぶ態度の育成”の本校の取組が定着し評価を得ている。しかし昨年同様保護者及び教員の否定的評価(保護者は“わからない”を含む)が4分の1をしめるなど家庭学習時間は伸びていないと考えられる。[重点目標2]に関しては、生徒は学校生活全体に積極的・有意義に取り組んでいる姿が伺える。また、懸案であった”自ら(クラス、部活動等)の問題として解決に取り組む姿”(生徒と教員間で評価が分かれていた)が、多くの行事を工夫し実施できたことや継続的な支援・指導により3年連続評価が上がっている。

◆学校関係者評価

アンケートにおいて教職員の認識と生徒・保護者の意見に乖離がみられる項目がある。そこに問題があることがはっきりしているので、できることから取り組んでほしい。学習・進路面では、学力定着の面で依然として課題が残されているので、粘り強く取り組んでほしい。自習室の環境整備が進んだことはよいことである。さらに、家庭学習時間が増加する対策、校外模試においても3年生になってさらに伸ばしていく方策を考えてほしい。生徒指導面に関しては、問題行動が減少していることは喜ばしい。スマホの使用に関して継続的な指導をお願いしたい。
また、地域活動が再開してきたので、ボランティア等地域まちづくり活動への積極的な参加や、IT系の講座の実施など学校の特色を増やしていくことで学校を活性化させることができるのではないかとのご意見を頂いた。

◆重点目標における総合評価

評価基準	(1) 各達成度に対し、「A:7点」、「B:5点」、「C:3点」、「D:1点」を乗じて点数化する。 (2) 点数化した合計点を課題数で平均化(評価点)し下表に従い総合評価する。									
	<table><tr><th>総合評価</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><th>評価点</th><td>6.0以上</td><td>5.9～4.0</td><td>3.9～2.0</td><td>2.0未満</td></tr></table>	総合評価	A	B	C	D	評価点	6.0以上	5.9～4.0	3.9～2.0
総合評価	A	B	C	D						
評価点	6.0以上	5.9～4.0	3.9～2.0	2.0未満						

重点目標1	重点目標2		
「指導と評価の工夫」「放課後学習支援」「英検・漢検の学校会場での実施」「進路図書の実践」など、進路実現に向けた学習行動に繋げる支援・指導法の改善を引き続き行った。更に、個人レベルの実践を学校全体で共有し指導力向上に活かすことが課題である。また、進路意識の向上や家庭学習時間の確保など家庭との協力は欠かせない。今後、課題である情報発信を改善し開かれた学校づくりを進め信頼関係の構築に努めたい。また、「ICT機器の活用」は進んでいる。より質の高い学習の実践を支援できるよう、効果的な活用方法を研究していく必要性がある。	B (5.00)	他者と協働して活動していくために必要なマナーは概ね身に付いている。コロナ感染拡大がやや落ち着き、多くの行事が従来の形で実施できた。また、新たに生徒会企画として「特別メニューの昼食提供・文化部等の発表会」、学年行事として「学年球技大会」「総探の時間のグループ活動」など他者と活動できる場面を創出できた。その中で成功体験を味わえたことが”生徒が主体的に取り組み解決しようとしている。””愛校心”の評価改善に繋がった要因の一つと思われる。今後も様々な機会を捉え適切な助言と支援を行っていく必要がある。	B (5.00)